

委員会等の会議録

1 会議名	第4回 愛南町事前復興計画策定懇話会	
2 議題	(1) 第3回愛南町事前復興計画策定懇話会での意見等について (2) 事前復興計画(ビジョン編)について (3) 事前復興計画(プロセス編) 復興手順と復興事前準備の検討について (4) その他 今後のスケジュールについて	
3 開催日時	令和8年2月12日(木) 13時30分から15時15分まで	
4 開催場所	愛南消防署 2階 大会議室	
5 傍聴者数	0人	
出席者		
6 委員氏名	二神 透、立石 和子、吉田 幸稔、宮崎 早苗、吉田 潤一、 山田 功、山口 ゆかり、ヤング 亜由美、清水 広幸、濱本 明、 下田 雅一、本多 晴一(代理)、広瀬 昌弘、大野 真由、 宗田 清昭、須田 泰造、氏川 誠一(代理)、黒田 亀利(代理)	
7 担当所属	所属名	防災対策課
	担当職員 (職・氏名)	課長 上田 耕平 主査 吉田 雅俊
8 その他の 出席職員	所属名	総務課、企画財政課、建設課
	出席職員 (職・氏名)	総務課長 濱 哲也 企画財政課長 清水 雅人 建設課長 吉村 克己
議事内容(次ページから)		

発言者	発言内容
上田課長	(開会挨拶及び配布資料確認) それでは、本日の会議の流れについて、担当の吉田から説明します。
吉田主査	(会議の進行について説明)
二神委員長	それでは、議事に入ります。まずは、(1)「第3回愛南町事前復興計画策定懇話会での意見等について」について、事務局から説明をお願いします。
吉田主査	(第3回愛南町事前復興計画策定懇話会での意見等について資料説明)
愛南町事前復興計画コンソーシアム	(防災集団移転促進事業の概要説明)
二神委員長	議事説明ありがとうございました。説明いただいた内容について、御意見、御質問等ありますか。
委員一同	(意見、質問等なし)
二神委員長	それでは、引き続き、(2)「事前復興計画(ビジョン編)について」事務局から説明をお願いします。
愛南町事前復興計画コンソーシアム	(事前復興計画(ビジョン編)について資料説明)
二神委員長	議事説明ありがとうございました。説明いただいた内容について、御意見、御質問等ありますでしょうか。
上田課長	今年度、東北へ視察に行き、復興のまちづくりについていくつか見てまいりました。復興のまちづくりには、それぞれの形がありましたが、大まかに言うと三つあると感じました。 一つ目は、被災した場所でそのまま復興させていく形です。この場合、経費も抑えられますし、何より復興までの時間が短く、すぐにまちづくりが再建されて生活を再開できます。 二つ目は、移転を伴うまちづくりです。浸水区域から少し高

	<p>台に移転し、そこで集落を形成する形になります。この場合、(土地の)造成や(住民の)合意形成が必要になるため、一定の時間が掛かります。</p> <p>三つ目は、最も大きな事例として陸前高田市のケースです。まち全体を埋め立てて大規模にかさ上げし、その上で都市形成をしたというものです。これは最もお金も時間もかかりますが、街並みは当然ながら非常にきれいに整っていました。一方で、一定数の方が町外へ出ていかれ、結果として人口が減ってしまったという現実もありました。</p> <p>このように、町の姿は今と大きく変わらないかもしれないけれど早期の復興を優先するパターン、ある程度時間とお金を掛けつつ規模を抑えるパターン、そして、十分にお金と時間を掛けて将来的に美しい町を目指すパターン、概ねこの三つがあると思います。そのあたりも考えながら、皆様から御意見をいただければと思います。よろしくお願いします。</p>
<p>二神委員長</p>	<p>事務局の発言を踏まえて、何か御質問等ありますか。それでは、私から、L1津波とL2津波について、どのようなビジョンを考えられているのでしょうか。</p>
<p>愛南町事前復興計画コンソーシアム</p>	<p>資料2の3ページ目を御覧ください。二神委員長から御指摘がありましたL1、L2については、今後の復興のあり方を考える上で重要な点です。資料の赤色・黄色の区分を見ていただければと思います。</p> <p>L1津波は、概ね数十年から数百年に1回程度の頻度で起きる津波です。東日本大震災の被災地では、防潮堤などを用いてこれを防いでいくという考え方になっています。被災地では高い防潮堤が整備されているところもありますが、これも基本的にはL1の津波を対象にしています。現在想定されている南海トラフの津波は、これに該当します。</p> <p>L2津波は、数百年から1000年に1回程度で、ほとんど起きないだろうと思われていた規模の津波です。東日本大震災の津波はこれに該当します。東日本大震災では、L2津波に対して防潮堤では守り切ることができず、大きな被害が出ました。そのため、L2津波については、防潮堤で守りきれないことを前提に、住み替えや移転、避難といった対策を進め、安全な場所に逃げられる避難環境を整備していくことが基本的な考え方となっています。</p>

	<p>愛南町でも、津波浸水想定区域を示したハザードマップが公表されていますが、これは想定最大規模の津波が起きた場合の浸水域を示したものです。資料下段には、御荘の平城など広範囲に浸水が想定されるイメージ図を載せています。ハザードマップを見ていただければ分かる通り、かなり広範囲が浸水する想定ですが、これはL2津波の浸水想定区域です。</p> <p>一方で、L1の場合も地形条件などに左右されますので、被害が出る可能性はあります。御荘湾の防潮堤についても、基本的にはL1を前提として整備計画が策定されていると伺っています。今後、L1・L2の議論はあると思いますが、どのような津波が来たとしても被害を抑え、更に早く復興できるまちをつくっていくことが重要だと考えています。そういった意味で、ハザードとしてはL2の、より大きい被害を想定しながら復興を考えていく、というビジョンで整理しています。</p>
<p>大野委員</p>	<p>資料2の5ページで気になる点があります。復興方針案に「支えあいの絆」と書かれていて、「支えあいの絆で誰もが自分らしく暮らせる地域をつくる」とあります。前回の意見でも、宮崎委員がコミュニティの弱体化が著しいとおっしゃっていたと思いますが、「支えあいの絆で」という文章を見ると、今この場で本当に支え合えるのだろうかという不安があります。実際に福浦など、支え合える地域もあると思います。そういった所は、大きな外科手術のような復興事業を必要としない復興ができるかもしれません。</p> <p>一方で、広域になってくる平城などでは、コミュニティが強い所もあるとは思いますが、そうでない所もあり、そういった地域には外科手術が必要なのではないかと感じます。そのため、「支えあいの絆で」という言葉に引っ掛かりがありました。</p>
<p>愛南町事前復興計画コンソーシアム</p>	<p>まず、資料5ページ目の目標4の基本方針の黄色の箇所について誤記がありました。正しくは6ページ目の黄色の記載「インフラと安全な地域づくり、強靱な基盤で安全で快適なまちを築く」が正式な内容です。資料に誤りがあり、大変申し訳ありませんでした。</p> <p>次に、目標2の「暮らし」をテーマにした「支えあいの絆で」という点ですが、復興においては支え合いが最も大事だという考えから掲げています。この後、プロセス編でも説明しますが、</p>

	<p>復興の主体はあくまで地域住民の皆様です。住民の皆様が、共助・自助・公助と連携しながら復興していく中で、支え合いの絆がなければ復興は成し遂げられない、という趣旨で入れています。コミュニティの弱体化についての課題は重々承知しています。資料9ページ目は視点が異なりますが、いわゆる外科手術のような大きな事業が入らない地域が多くなるのが、実際の復興の姿だと考えています。そうした「事業の空白地」をどうしていくのが重要です。</p> <p>そのため、住民の皆様による地域のまちづくりが非常に大事になります。能登半島地震でも、住民によるまちづくり協議会のようなものが立ち上がり、町の皆様が支え合って復興を進めていこうとされています。こうしたことを復興前から考え、皆様が作っていかないと、いざというときになかなか議論ができなくなってしまいます。私は、これが事前復興で最も大事だと思っています。各地区で、地域の皆様がまちづくりを考える組織や考える場を作ることが、愛南町において非常に重要なテーマだと考えています。</p>
二神委員長	<p>コミュニティを強くするためには、地域の方が集まり、ワークショップを行いながら意見を出し合い、考えていくことが大事だと思います。</p>
吉田幸稔委員	<p>今回から参加となり、以前のことはあまり分かりませんが、本日初めて資料を見せていただきました。私は外泊地区に住んでいます。復興デザインの関係で何回か会を開かせていただいた中で、外泊地区は石垣を守りたいので、ここに住み続けたいという思いがあります。</p> <p>ただ、集団移転をする場合、移転先へ上がる道路がありません。特に愛南町の海岸部、半島部の集落では、ほぼ海岸沿いに道路があります。海岸沿いの道路だけだと、移転するにも家を建てるにも道がなく、材料を上まで運べないといった問題が出ます。高台へ上がると生活に支障が出る面もあります。</p> <p>特に、漁業をしている地域では、生業をそのまま続けたいということもあると思いますので、高台までの道や、高台を抜ける道を作ることが必要ではないかと考えました。お金がかかることではありますが、復興計画の中に、半島部周辺の浸水区域以上の道路整備も含めておくと良いのではないかと考えました。</p>

<p>建設課 吉村課長</p>	<p>また、第4章の目標2「支え合いの絆で誰もが自分らしく暮らせる地域をつくる」について、外泊地区では、今までどおり部落行事や祭りなどを何とか続けていこうとしています。そうすることで、地域の人たちが顔を合わせる機会が増え、災害時の絆やコミュニケーションにつながると考えています。</p> <p>ただ、地区によっては、財政面や人口減少などでなかなか継続が難しい所もあると思います。行政として、財政的支援や人材派遣の仕組みなどを整えていただき、地区のコミュニティ作りには行政側も協力していただければ、各地区としては大変助かるのではないかと考えました。</p> <p>道路については、地区要望として、福浦地区等でも同様の説明をしてきました。ただ、防災に絡めてどう動くのかという点は、課題も含めて見えにくい部分があります。現在、建設課で都市計画マスタープランを進めていますので、その中で地区割りをを行う予定です。その際に改めて御質問し、詳しくお話を伺った上で判断していきたいというのが現時点の考え方です。</p> <p>また、都市計画マスタープランについても、事前復興を絡めて法的に整理していきます。事前復興の内容を大きくまとめた上で、同時期に計画を完成させることも考え、今後は両輪で進めていきたいと思っています。</p> <p>町長もそのように考えていますので、同時並行で進めさせていただきたいと思います。</p>
<p>企画財政課 清水課長</p>	<p>2点目の、地域のコミュニティを守る政策についてですが、愛南町は、実は地域に対してかなり地域振興費を支出しています。県下でも、これだけ支出している町はないのではないかと考えています。</p> <p>こうした制度を活用していただくことに加えて、地域のイベント等を守る活動として、生涯学習課では、その地域行事の記録を残す取組も行っています。</p> <p>そのような中で、住民の方々が自分のこととして考え、地域を守る活動をしていただけたらと思います。</p>
<p>宮崎委員</p>	<p>私ども社会福祉協議会でも、「誰もがその地域で安心して自分らしく暮らせるまちづくり」を目指し、地域福祉活動計画に基づいて地域自主事業を進めています。</p> <p>先ほどからコミュニティの問題が出ていますが、ビジョンを</p>

	<p>描くときには、現状として、地域でどのような問題が起きているのか、どのような課題を抱えているのかを把握することが重要だと考えています。社会福祉協議会では、地域で座談会やワークショップを行い、個別訪問調査なども行っています。</p> <p>その中で、住民の皆様が不安や課題として挙げられるのは、まず移動に関することです。病院に行きたくてもバスがない、コミュニティバスを使っても時間帯が合わない、タクシー券はあるがタクシー自体が不足していて移動できない、といった声があります。</p> <p>次に、買い物の問題です。地域に商店がなく買い物に困っているという声があります。移動販売は来るものの、自分で見て買いたいという思いもあり、やはり商店がないことに不安を感じる方が多いです。</p> <p>さらに、コミュニティの問題です。誰もが寄り集まれる場所や機会が少ないという課題があります。社協では、ふれあいサロンや老人クラブなどの活動・集まりへの支援を行っていますが、担い手や地域リーダーがいないという課題があります。最前線で頑張っている方々も高齢化して、担い手不足に不安を感じているという声が多く上がっています。</p> <p>こうした状況の中で、地域住民の皆様と、地域内で助け合いによりどう解決できるかを考えてはいるのですが、事前復興計画についても、ビジョンを描く段階で住民の皆様から今の課題を十分に吸い上げることが大切だと思います。</p> <p>また、高台に移転すると、移動の問題が新たに大きく出てくるのではないかと、コミュニティ形成の面でも課題が出るのではないかと感じます。そういった課題を把握した上でビジョンを描いていけると良いのではないかと感じました。</p>
<p>二神委員長</p>	<p>東日本大震災では高台移転をされた方も多いと思いますが、先ほど御指摘いただいた課題の実例があれば教えてください。高台移転後に移動ができない、買い物に困るなど、モビリティに関する課題が生じた事例があればお願いします。</p>
<p>愛南町事前復興計画コンソーシアム</p>	<p>今年、愛南町の行政職員の皆様と一緒に、石巻市の北上地区に行っていました。そこでは、複数の漁業集落が高台移転をしており、「にっこり団地」という場所がありました。</p> <p>やはり、高齢者が集まる中で、近くにお店がなく買い物難民になっているという話がありました。以前は、移動販売が来て</p>

	<p>いたものの、今は来なくなつたとも言われていました。「移動販売が来るから大丈夫」という前提は、将来変わってしまう可能性があるので、移転を考えるときには、移動や生活サービスとセットで考えるべきだと思います。そうした点も踏まえて、地域の皆様としっかり議論していく必要があると考えております。</p>
<p>二神委員長</p>	<p>それでは、次の議事に移ります。 (3)「事前復興計画(プロセス編)について 復興手順と復興事前準備の検討について」事務局から説明をお願いします。</p>
<p>吉田主査、 愛南町事前復興計画 画コンソーシアム</p>	<p>(事前復興計画(プロセス編)について 復興手順と復興事前準備の検討について資料説明)</p>
<p>二神委員長</p>	<p>議事説明ありがとうございました。説明いただいた内容について、御意見、御質問等ありますか。</p>
<p>宗田委員</p>	<p>今回の資料を見ると、今、企画財政課がパブリックコメントの募集をされている愛南町の総合計画、これは最上位の計画と理解しているのですが、我々が今関係しているこの計画と、総合計画とがリンクするような場面が出たとき、反映する必要があるのでしょうか。</p>
<p>企画財政課 清水課長</p>	<p>総合計画というのは最上位の計画でして、どちらかといえば、総合計画に事前復興計画に沿っていく、その中で総合計画の中の実施計画というのはですね、実は目には見えてこない計画でして、その大きな基本計画の中にこの事前復興計画も含まれるという形になります。後期の計画期間が過ぎますと、今度は第4次総合計画が始まりますが、その際にはまた更に精度が精査されたものが溶け込んでいくというような形になります。</p>
<p>愛南土木事務所 黒田企画調整幹</p>	<p>今回初めて出席させていただいたのですが、とても参考になりました。愛南町は、由良半島から西海など海岸線が長く、計画書を読んでいたら、街中には該当するけど、そういう地理的要件というか、由良半島の人たちが点在する集落で「高台に移転せよ」と言ってもなかなか難しいですね。そういう愛南町独自の地理的なものを加味してもらえば、独自の事前復興計画</p>

<p>愛媛県都市計画課 氏川主幹</p>	<p>になるのかなと思いました。</p> <p>そしてもう一つが、先ほど吉田委員が言われていた道路の復興についてですが、愛南土木としても橋の強化などいろいろ強靱化を図っています。大きな災害が来たら壊れると思っていますので、壊れた場合にどうするのか、道路上の土砂やがれきの撤去、段差の解消などの訓練、そういうものを行って復旧をしていくという風に考えています。これは道路啓開訓練といって、建設業協会南宇和支部と協力して行っています。今後はほかの方にも参加していただいて、そのような訓練も広めていきたいと考えていますので、よろしくお願いします。</p> <p>私も本日、初めてこの会に参加させていただきました。非常に愛南町の行政、町民の方の熱意が伝わって、良い会議だったと思います。</p> <p>特に、都市計画課の立場として非常に感心したのが、復興まちづくりの方向性を行政として検討しながら、我々の大きな施策でもある都市計画マスタープランも取り入れ、両輪で反映して復興まちづくりを進めていただいているということで、総合的に計画を進められていることに非常に良いことだと考えています。</p> <p>都市計画マスタープランなども令和7年度から検討に着手しているということで、戸惑うこともあろうかと思っておりますので、そういった着手の段階で何か御相談がありましたら、私は担当が違いますが、都市計画課に担当部署もありますので、いろいろ御相談いただければとは思いました。今後とも引き続きよろしくお願いします。</p>
<p>大洲河川国道 事務所長 須田委員</p>	<p>本年4月からということで、特に愛南町におかれましては、我々の事業で宿毛内海道路の整備について、皆様関心があると思いますけど、日頃からいろいろ御協力いただきまして、現在事業を円滑に進めて着手できているところです。</p> <p>私も今回初めてではありますが、実は、昨年度は隣の中村河川国道事務所で事務所長をしております、宿毛市、それから大月町の事前復興計画の委員として、こことは少し違った復興デザインなども、復建調査設計株式会社様と一緒に携わらせていただいて、先日の宇和島市の全国大会でもずっと聞いていました。</p> <p>その中で、愛南町は本当に地形が複雑で、津波も来るし半島</p>

	<p>もあるというところで、いろいろ御質問されてる中で、何となくもどかしいかなという、なかなか答えられてないところがいっぱいあると思うのですが、なかなか事業がすぐにはできないというところで、歯がゆいところがあると思いますが、非常に良い検討をされているのかなと思います。</p> <p>都市計画などでも、様々な所で都市計画をしまして、例えば街中だったら立地適正化計画との関係をどうしていくかなど、様々な疑問がありますので、専門的な話になるので、そこはお話をしながらしていきたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。</p> <p>二神委員長 どうもありがとうございました。本日の議事では、事前復興計画のビジョンについて様々な御意見をいただきました。それから、プロセス編について御報告がありました。また、皆様の率直な御意見をいただきながら事前復興計画を進めていきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。</p> <p>それでは最後に、事務局から今後のスケジュール等について説明をお願ひします。</p>
<p>上田課長</p>	<p>二神委員長、円滑な会議進行ありがとうございました。また委員の皆様には本日は貴重な御意見をいただきまして、ありがとうございました。本日いただきました御意見につきましては、防災対策課内で検討し、ワーキンググループの職員と共に計画の精度を高めるように進めてまいりたいと考えています。</p> <p>再度の説明にはなりますが、事務局では令和8年度中に事前復興計画プロセス編の完成を目指しており、各取組を進めています。今後の会議の開催ですが、次回の第5回の懇話会は、現在策定に取り組んでいます愛南町都市計画マスタープランとの調整の必要がありますので、来年度の秋頃に予定しています。またパブリックコメントにつきましても予定をしています。</p> <p>本日の会議は事前に資料をお渡しすることができませんでしたので、お持ち帰りいただき、ゆっくり精査していただき、御意見を伺えればと思ひています。明日以降に、依頼文書をお送りしますので、率直な御意見を記入いただいて返送いただければと思ひます。よろしくお願ひします。</p> <p>それから、先ほど御指摘を受けました都市計画マスタープランの話になりますが、こちらは建設課が所管となります。来年度の春頃、今後のまちづくりについて地域の方々の御意見を伺</p>

	<p>う意見交換会を開催する予定としていますので、こちらの参加につきましても、御検討いただければ幸いです。</p> <p>次回の開催につきましては、改めて御案内しますので、その際はよろしく申し上げます。事務局からの連絡事項は以上です。引き続き、皆様の御協力をお願いします。</p> <p>以上をもちまして、第4回愛南町事前復興計画策定懇話会を閉会します。本日は誠にありがとうございました。</p>
--	--